

大学のゼミ合宿

能登町で始まる

学習院、法政

学習院大経済学部と法政大経営学部のゼミ合宿は2日、能登町内で、3日間の日程で始まった。参加した59人は町職員らから町の特色や特産品、産業などの説明を受け、地域活性化に向けた取り組み

や課題などについて学んだ。

合宿初日は国民宿舎やなぎだ荘で講話が行われ、町職員と数馬嘉雄町商工会長、谷内治明能登町地域活性化推進協議会長が、海洋深層水を生かした加工品や魚醤ぎょじょう「いしる」の生産などを紹介した。

合宿は同協議会が、町の交流人口拡大、振興策について大学生から提案してもらったため招致した。両大学のゼミ生が同町を訪れるのは今回が初めてで、6月には再度訪問し、町民向けの研究報告と意見交換を行う。